

## 評価結果概要表

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3873500775
法人名	有限会社 おきた建築
事業所名	ぐるうぱほーむ 砥辺
所在地	愛媛県伊予郡砥部町原町260番地
自己評価作成日	平成26年10月1日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成26年10月23日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

民家を改造したホームで、リビングには常に花を生けたり、季節に合った物を飾ったりと家庭的な雰囲気を感じています。利用者様や職員の笑顔が絶えない朗らかなホームです。食事はすべて利用者様と一緒に手作りし、食後は後片付けも手伝ってもらっています。また、毎日利用者様と買い物に出かけ、地元で採れた野菜や地物の食材を多く取り入れており、とても好評です。医療面においても日々の健康管理や観察を丁寧に行い、町内にある協力医療機関と密に連携がとれています。また、職員とも連携がとれており、働きやすさを感じると共に、利用者様とも良い馴染みの関係が築けています。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

玄関先にはプランターに花を植えて飾っている。居間の壁面には、行事時の写真等が貼られていた。調査訪問時、利用者はソファでテレビを見たり、台所のテーブル席で食材の下ごしらえや洗濯物たたみをして過ごされていた。民家改修型事業所であり、車いすでの行き来が難しい場所も見受けられるが、利用者はテーブルや壁、棚を手すり替わりにして、ご自分の力を使って移動されていた。洗面台の横には、利用者個々の名札がついた専用のタオルを掛けており、職員が朝晩、タオルを交換している。利用者は地元から入居している方が多く、知り合いと会うと「元気にしてるかな」等と声をかけてくれる。ご家族も地元の方が多く、他利用者のことを以前から知っている場合が多く、声を掛けたりお話しする場面がよく見られるようだ。

### ・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者の</li> <li>2. 利用者の2/3くらいの</li> <li>3. 利用者の1/3くらいの</li> <li>4. ほとんど掴んでいない</li> </ol>	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 毎日ある</li> <li>2. 数日に1回程度ある</li> <li>3. たまにある</li> <li>4. ほとんどない</li> </ol>	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者が</li> <li>2. 利用者の2/3くらいが</li> <li>3. 利用者の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ol>	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者が</li> <li>2. 利用者の2/3くらいが</li> <li>3. 利用者の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ol>	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者が</li> <li>2. 利用者の2/3くらいが</li> <li>3. 利用者の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ol>	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者が</li> <li>2. 利用者の2/3くらいが</li> <li>3. 利用者の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ol>	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者が</li> <li>2. 利用者の2/3くらいが</li> <li>3. 利用者の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての家族と</li> <li>2. 家族の2/3くらいと</li> <li>3. 家族の1/3くらいと</li> <li>4. ほとんどできていない</li> </ol>

# 自己評価及び外部評価結果表

## サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

### 【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 ぐるうぷほーむ 砥辺

(ユニット名)

記入者(管理者)

氏名

渡部優子

評価完了日

平成 26 年 10 月 1 日

# 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 地域に密着し、家庭的な雰囲気の中で穏やかに生活できるように、また、その人らしさを大切に、家族様と共に支え合うことを踏まえた理念を掲げている。毎日の申し送りや、毎月のカンファレンス時に、支援の中で理念を共有し実践できるよう職員間で確認しあっている。職員の入れ替わりもあったので、更に理念が共有できるようにしたい。	
			(外部評価) 事業所は「私たちは、住み慣れた地域の中で家庭的な雰囲気のもと、その人らしさを大切に、穏やかで安心した暮らしが継続できるようご家族とともに支援します」と理念をつくり、居間や廊下に掲示されている。新人職員、又、系列事業所からの職員の異動があれば、管理者が理念について説明されている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 代表が地元ということもあり、地域とのつながりが強く、職員も町内や近郊の者が多い。散歩に出たときなどはご近所の方と挨拶を交わしたり、毎日の買い物も地元のスーパーを利用し、顔見知りになっており地域とのつながりを大切にしている。来年度でホーム開設10周年になる。ご近所の方のホームの認知度も少しずつ高まっていると感じる。	
			(外部評価) お花見やお餅つき等の行事の際は、地域の方が準備から手伝ってくれている。利用者は地元から入居している方が多く、知り合いと会うと「元気にしとるかな」等と声をかけてくれる。お隣にあるシルバー人材センターに、庭木の剪定をお願いしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 地域やご近所の方の相談を受けることもある。また、相談の内容によっては地域包括支援センターへつなげることもしている。	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議ではさまざまなテーマで、事業所の取り組みを報告し、地域の方にも出席していただいている。ご家族の出席は決まった方になりがちであるが、入居者様を交えた運営推進会議を春にはお花見、夏にはいもだき、年末には餅つき大会を実施している。今年度は10月の運営推進会議で家族様を交えた消防訓練を予定している。その都度、カンファレンス時に職員にも報告していきたい。	会議を通じて、いろいろな立場の方から事業所のサービスについての感想や意見等をいただけるよう、会議の取り組みに工夫されてはどうだろうか。
			(外部評価) 会議は、年6回のうち1回は事業所単独の会議を行い、ほか5回の会議は、同地区にある系列グループホームと合同で行事と合わせ行われている。地域の方やご家族の参加もあるが、現在は、参加者が限られているようだ。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議には必ず出席していただいております、何でも相談できる関係にある。	
			(外部評価) 地域包括支援センターには、ご自宅で暮らす認知症の方について情報提供することもある。毎月、事業所には介護相談員の訪問があり、利用者と居室でお話をしたり、お話をあまりされない利用者からは、折り紙を一緒にしながら思いを探ってくれている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束のないケアは実践できている。職員も理解し更に所内研修でも再確認している。玄関の施錠はしていないが、利用者様の状況により、出入りがわかりやすいように鈴をつける等しているが、外に出たくて玄関を開けて鈴が鳴った時は、制止することなく必ず職員が付き添い一緒に出るようにしている。	
			(外部評価) ベットから足を下ろすとセンサーが反応し、職員に分かるようになっている。2階には居室が2室あり、通路の段差の部分には伸縮式の本の柵、階段の降口にはスライド扉があるが、現在は使用せず、職員が付き添いながら支援されている。	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待があってはならないことは職員個々が熟知している。気持ちに余裕を持って利用者様と関わり、職員の行動や言動に気をつけ虐待があってはならないことは、常に話している。また、所内研修としてカンファレンス時に学び、再確認している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 代表や管理者は、権利擁護や成年後見制度について理解しており、相談があれば適切にアドバイスを行うことができる。8月の所内研修でテーマに取り上げ勉強会を実施した。更に研修を重ね知識を深めていきたい。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には必ず、重要事項説明書を読み合わせし、説明を行っている。疑問点に関しても丁寧に説明し同意を得ている。また、分からない事はいつでも、連絡して下さいと伝えている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族には意見や要望は遠慮なく伝えてほしいと常に話している。また、職員は家族が思いや要望などを少しでも話し易いような雰囲気作りを心掛けている。 (外部評価) 系列事業所と合同で発行する「おきた・砥辺通信」は、日々の利用者の暮らしの様子が分かる写真や、お誕生会や行事等の写真を載せており、ご家族に好評のようだ。ご家族来訪時、職員は、どこで過ごされるか希望をお聞きして案内されている。一緒に散歩に出かけるご家族もあるが、なかなかお話が弾まないような様子があれば、職員が「〇〇さん、この前〇〇へ出かけたんですよ」と会話のきっかけを作るようなこともある。	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	カンファレンス時や勤務中にも話すことは多々あり、職員の意見や提案を聞いて、できることは反映させている。	
			(外部評価)		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	職員にとって働きやすい環境や働きやすい条件となるよう、可能な限り努力している。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	研修の案内を必ず職員に知らせ、希望者は研修に参加できる体制にしている。今年度は認知症ケア、高齢者虐待、身体拘束、成年後見制度、高齢者権利擁護、コンプライアンス等について所内研修を実施できたが、外部研修への参加は少なかった。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価)	代表や管理者は同業者と交流する機会があるが、現在は職員同士の同業者の交流はない。	
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	本人が納得して入居できるよう、できる限り努力している。入居後は笑顔を忘れず、穏やかに対応し、不安のない安心した生活ができるよう努めている。	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 不安に思っていることや、困っていることなど、また要望などは遠慮をせずに気軽に話してほしいと家族には常に伝えている。また、職員は常に笑顔を忘れず家族様の思いに耳を傾けられるように心掛けている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 利用者様がスムーズに入居できるようお試しでの入居も受け入れている。様々なケースに対して常に柔軟に対応している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 女性の利用者様には家事などを一緒にさせていただいている。男性の利用者様には男性ならではの力仕事などを一緒にしてもらっている。共に生活しながら毎日色々な話をして楽しみながら生活を共にしている。また、利用者様から職員へ労いの言葉をいただいたり、冗談を言い合ったりして心通わせ、いろいろ学ぶことも多い。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 利用者様を共に支えるために面会に来られた際には、状態を報告したり、家族様にお問い合わせなどとして、共に支え合える関係が築けるよう努力している。また、入所前の生活状況などを話していただいたりすることで、家族と職員の距離を少しずつ縮めていけるように心掛けている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 家族様にも馴染みの方にホームに面会していただくよう、お願いしている。友人が直接ホームに訪ねて来て下さることもある。できる限り、馴染みの関係が継続できるよう支援している。 (外部評価) ご家族も地元の方が多く、他利用者のことを以前から知っている場合が多く、声を掛けたりお話する場面がよく見られるようだ。以前事業所を利用していた方のご家族から、毎年、新米を購入する等してつながりを持っている。ご家族の方が持ってきてくれた梅酒の梅を、毎晩一つずつ食べることを楽しみにしている方がいる。	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 職員が一緒になり会話を楽しんだり、歌を歌ったり、ゲームをしたりして、楽しい時間を過ごすようにしている。また、日々の生活の中で利用者個人の思いや感情を察することにより、利用者同士のトラブルや孤立が起きないように努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退去時には今後も相談に乗れることとお話している。他のサービスへ移行する際には、詳しい介護サマリーを作成し、しっかりと申し送りをしている。	
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 利用者様との日々の関わりの中で(調理の手伝い時、入浴時、散歩時、買い物時、食事時等々)、思いや意向が汲み取れるよう努力している。また、家族様からも情報を得られるよう面会に来られた際には、いろいろ話を聞くようにしている。更に、様々な角度からコミュニケーションを多くとる心がけている。 (外部評価) 職員は、利用者がお好きなテレビ番組を楽しめるよう時間が来たらお知らせしたり、カラオケがお好きだった利用者には、居室でお気に入りの歌手の歌を楽しめるよう、CDラジカセの操作等をサポートされている。ご夫婦で利用している方には、お二人の時間を大切にできるような支援に心がけておられる。日々の介護記録には、利用者の思いや会話等を詳細に書く職員もあり、その情報を参考にしていく職員もいる。	管理者は、利用者の思いや意向についての情報を分かりやすくまとめるような様式作りを考えておられた。今後さらに、利用者から得た情報をもとにして、日頃のケアや介護計画につなげていくような取り組みに工夫されてほしい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時に利用者様、家族様よりアセスメントシートを元に、聞き取りを行い、今までの生活歴を職員全員が把握するよう努めている。また、ケアマネジャーや関係機関からも情報を得るようにしている。入居後も日々の関わりの中から、利用様の話や家族様に聞くなどしながら、これまでの暮らしの把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 毎日の申し送り時には一人一人の状況を確認しあっている。また、カンファレンス時には利用者様ごとの話し合いを詳しく持ち、全職員が現状を把握するよう努めている。更に、受け持ち担当を決め、利用者様ごとに密な関係が築けるよう努めている。	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価)	
			入居者様の生活や日々の関わりを踏まえて、まずご本人や家族様とお話して、介護計画の内容を相談している。また、今までの評価や家族様、ご本人様と相談して予定したプランをカンファレンス時に報告して情報を共有している。	
			(外部評価)	
			介護計画の見直しは、基本的に3ヶ月毎に行われている。介護計画の支援内容には番号を振っており、支援時は番号を記入して記録する仕組みを作っており、モニタリングしやすいように工夫されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価)	
			簡単な現状の記録だけでなく、もう少し入居者様の言葉を大切に記録ができるように取り組んできた。ケアプランの内容に即した記録は別の欄に印をつけるようにしている。バイタルサインや排泄の状態、食事量、水分量、等に関しては毎日記録している。また、他の職員の記録を見て対応の仕方など参考にすることがある。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価)	
			通院介助や入退院のお迎え、個別外出の支援、家族様が来られた時などは一緒に食事をしていただく等の、いろいろなケースや状況に対しては常に柔軟な対応がとれるよう心掛けている。また、県外から帰省された家族様が宿泊される事もある。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価)	
			町内のイベントにも参加することがあるが、重度化により全員参加にはなりにくい状況である。地方祭の時などお神輿を見せてもらったりしている。また、地域のスーパーや美容室を利用している。	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 協力の医療機関のみならず、希望される医療機関を受診できるように常に支援しており、皮膚科や整形外科等も受診された方がおられる。協力医院からは、月1回の往診があり、ご利用者様個々の健康状態を把握していただき、密な連携がとれている。	
			(外部評価) 協力医療機関の診察時間外は、その日の救急当番の病院に診てもらえるよう支援されている。薬局から、薬剤師が来てくれて、利用者別に朝・昼・夕等用に薬をセットしてくれている。利用者個々の「診察記録」には、受診した経緯、受診時の医師の指示等、医療に関する情報を日時も分かるようにまとめられている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) ホームには看護師がおり健康管理や、急変時にも適切な対応がとれている。また、協力医療機関の訪問看護師や外来看護師とも連携がとれており、気になる事は気軽に相談できる関係であり大変心強い。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価) 入院中は主治医、病棟看護師、家族様と密に連絡を取り合い、早期に退院できるように働きかけ、入院による利用者様のダメージを最小限にできるよう努力している。入院時には、ホームの職員も都合の付く限りお見舞いにも行き、情報の把握に努めている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 重度化や看取りに関して指針を定めている。利用者様ごとに状況を見ながら、ホームがどのような支援を行えるのか、その都度ご家族様とも慎重に話し合いを重ねながら、検討していきたい。	
			(外部評価) 看取りを希望していたご家族があり、事業所で対応していたが、持病の悪化のため、ご家族と相談して入院となったケースがある。協力医療機関の体制上、管理者は、事業所での看取り支援には限界があることを感じておられたが、今後もその時々にご家族と相談しながら支援に努めたいと話しておられた。	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) カンファレンス時や所内研修で対応を話している。新人職員も入職した為、あらためて急変時の対応や事故発生時の対応について勉強会を重ね、実践力を身につけていきたい。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回、4月と10月には消防署員に来ていただき、入居者様も共に避難総合訓練を実施し、消火器や通報装置の使用方法を学んでいる。また、近隣の方へは、日頃のお付き合いの中で、災害時に協力が得られるように働きかけている。職員の入れ替わりもあり、災害時に落ち着いた対応が出来るよう、更に訓練を重ねていきたい。また、今年度は10月に運営推進会議で家族様も交えて避難総合訓練を実施する予定である。 (外部評価) 事業所には、水や米、インスタントラーメン、カセットコンロ、紙パンツ等を備蓄しており、各居室には、ヘルメットが備えられていた。今回の避難訓練は、初めての試みとして、ご家族にも参加していただき、訓練実施後は、防災に関するDVDを見たり、消防署からのお話と一緒に聞くことを予定されている。	
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 人生の先輩である利用者様には常に敬意を払う気持ちを忘れず、さりげない介助(言葉遣いなど)を行い、嫌な思いや不安感を感じさせないように気をつけている。常に利用者様を尊重した声かけが行えるよう、カンファレンス時に接遇に関して職員間で再確認している。また利用者様の個人情報については、外部に漏らすことのないよう、責任ある取り扱いをしている。 (外部評価) 管理者は、利用者が「ここで暮らせて良かった」と思えるように「やさしく対応する」「否定はしない」「馴れ合いで言葉遣いが乱れないように」指導されている。又、地域とのつながりが深いことにより、事業所に関係する方々との何気ない会話の中で、個人情報に関することが多くなることを踏まえて、管理者は個人情報の取り扱いには十分に気を付けるよう、職員に指導されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者様に合わせた声掛けを行い、できる方には自己決定していただいている。ただ、意思表示が上手くできなかったり、理解が乏しかったりする場合も不安にならないように、職員が思いを察知してスムーズに自己決定ができるように配慮している。	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) ホームの中で、なるべく利用者様一人一人のペースを大切にして、思いに沿った生活ができるようにあくまでも利用者様を優先して支援するよう心掛けている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 日々の生活の中で、身だしなみが整えられるよう支援している。パーマは希望に沿ってなじみの美容室に出かけている方もおられるし、2ヶ月に1度くらいのペースで美容師にきていただくようにしている。四季を通じ、清潔に心がけている。入浴後の手足の爪切りも気をつけて行っている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者様と毎日スーパーへ食材を買いに行き、おやつもなるべく利用者様に考えて選んでいただいている。地元でとれた野菜を使って季節の物を取り入れ、彩りや栄養価も考えながら、楽しい食卓になるよう努力している。料理の下ごしらえや調理、盛り付け、後片付けなど、毎日利用者様と一緒に話しながら楽しく行っている。	
			(外部評価) ミキサー食で食事する利用者の介助は「ひじきですよ」「栗ごはんですよ」と一口ずつ説明されていた。又、食事が進まない利用者には、職員が「おにぎりにしましょうか?」と聞いて対応されていた。ご家族から差し入れをいただくことも多く、調査訪問日には、栗や柿をいただき、栗ごはんや柿ゼリーが食卓に上っていた。食事を残す利用者はほとんどいないため、職員は、「見た目が良くカロリーを抑えた食事」作りに努めており、又「ミキサー食の方も、目で見て楽しんでもらえるようなソフト食を勉強したい」と話されていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 脱水には特に気を付け、1日の水分量が1200CC以上になるよう努めており、記録に残している。体重の増減や身体の状態を把握してバランスの良い献立を工夫している。利用者様の身体の状態に応じた量や薄味を心掛けている。また、切り方などにも気を配っている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 起床時や就寝前の義歯のケアをする際には個々の状態に応じて声掛けをしたりしながら一緒に口腔ケアを行っている。また、ご自分でできる方については声をかけて見守り、確認をする程度である。	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 一人一人の排泄パターンの把握に努め、配慮のある声掛けにより、トイレ介助を行い失敗が減っていくように支援している。また、無理強いすることなく、トイレに行こうとされた時にさりげなく見守りや介助を行い、不衛生にならないように気を付けている。	
			(外部評価) 排泄記録には、一日の水分量を記録し、パッドを使用している方は、パッド交換の回数も記録されている。一人ひとりの排泄パターンをもとにして、トイレ誘導して支援されている。夜間は居室でポータブルトイレを使用している方もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 水分摂取に気を付け、繊維質の多い野菜類を献立に出すようにしている。また、個々の利用者様に合わせ、便秘解消の食材や果物を提供するなど、便秘改善に向け働きかける努力をしている。	
			(外部評価)	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 気持ちよく入浴していただけるよう、利用者様に合わせて会話をしながら、一緒に楽しく入浴ができるように努力している。また、三名のリフト浴についても希望を聞きながら湯船につかる時間を調節している。入浴の曜日については、利用者様の状況に応じておおむね決めているが、時間、曜日などは何時でも変更できるような体制にしている。	
			(外部評価) 湯船で温まっている間は、お話たり、時には、一緒に歌を歌ったりして利用者がゆっくりできるよう支援されている。入院中は入浴を嫌がっていた方も、現在は入浴を楽しまれている。リフト浴設置の改修工事に伴い、洗い場が底上げされたことで、浴槽が深くなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 昼間はできるだけ活動的に過ごしていただき、夜間はなるべく安眠につながるような支援している。利用者様の生活リズムでお昼寝をされる方もおられるが、それは個人の意志を尊重している。	
			(外部評価)	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 飲み忘れや誤薬がないよう職員同士で声を出して確認し合うようにしている。お薬手帳や説明書はいつでも確認できるよう、目につくところに置き、薬の把握に努めている。また、服薬後は症状に変化がないか観察するなど、気を配っている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 利用者様1人1人の趣味や役割など、できることを見つけるのは難しいが、毎日の料理の手伝いで笑顔が見られたり、外出やお散歩で喜んでもらえたりして気分転換やストレス解消が少しでもできるよう努めている。また、毎日の生活の中での事は必ず声をかけて、出来る方に手伝っていただき少しでも張り合いが感じられる生活をしていただけるように心掛けています。9月に入居された方は毎日編み物をされている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 毎日の買い物には必ず、入居者様に声をかけてお誘いしている。職員の手配の都合や利用者様の身体の状況もあり、遠方への外出はできていないが、近くへの散歩や、外庭に出る等は実施できている。お花見は家族様や地域の方もお誘いして行ったり、家族の協力で故郷の自宅に帰られる方もおられる。 (外部評価) 職員と一緒に近所のスーパーへ食材の買い物に行く方や、ご家族の来訪時には一緒に近くを散歩する方、車いすで庭先に出て過ごす等、個々の状態に合わせて外に出られるよう支援されている。管理者は、利用者の重度化に伴い、みなで外出を楽しむことが難しくなってきたことを感じておられた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 職員は理解はしているが、現在は現金を持って管理できる利用者様はおられない。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 現在は自分で自由に電話をかける利用者様がおられないので、希望された時には職員がダイヤルし会話できる様、支援をしている。	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) リビングには花を飾ったり、壁面には季節感のある掛け軸なども飾り、利用者様が居心地良く過ごせるように工夫している。温度(湿度)計を置いて不快な環境にならないように配慮している。手狭ではあるが、台所がすぐそこにあり家庭的な雰囲気である。また、ご本人の過ごしたいところで過ごせるように努めている。	
			(外部評価) 玄関先にはプランターに花を植えて飾っている。居間の壁面には、行事時の写真等が貼られていた。調査訪問時、利用者はソファでテレビを見たり、台所のテーブル席で食材の下ごしらえや洗濯物たたみをして過ごされていた。民家改修型事業所であり、車いすでの行き来が難しい場所も見受けられるが、利用者はテーブルや壁、棚を手すり替わりにしてご自分の力を使って移動されていた。洗面台の横には、利用者個々の名札がついた専用のタオルを掛けており、職員が朝晩、タオルを交換している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 広くはないが、利用者様が自由に過ごしていただける空間となっている。また、家族様が来られた時にはお茶を飲みながら一緒に過ごされることもあったり、気の合う利用者同士でお話しされたりしている。編み物をされる利用者様もおられる。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 使い慣れた物や馴染みの品を持って来ていただけるよう、家族様に声掛けし、アルバムを置いたり、小物を置いたりして居心地良く過ごせるようなお部屋となるよう努めている。また、誕生日には色紙に写真を撮ってお祝いの言葉を書いて居室に飾るようにしており、喜んでもらっている。	
			(外部評価) 県外に住むご家族が衣替えの時期に来られて、居室で泊まって帰ることもある。ご家族からの写真付ハガキやひ孫さんの写真を飾っている居室もみられた。絵を描くことが好きな方には、職員が花瓶にお花を活けて準備しており、クレヨンを使って熱心に絵を描かれるようだ。時には、ご家族に見てもらうこともある。ベッド柵に日めくりカレンダーを引っかけており、毎日ご自分でめくる方がいる。毎朝、居室をモップがけすることが日課になっている方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) バリアフリーの造りではないが、廊下や階段など色々な所に手すりを設置し、利用者様が安全に移動していただけるよう配慮している。また、場所に対する混乱がないよう、トイレの表示や自室の名札などをつけて、分かりやすくしている。	